

大阪市立大宮西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	②	本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。	生活指導部	B
施策	1-1-2	「いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職（校長・教頭等）に報告している」とする教員の割合を100%にする。	生活指導部	B
	1-1-3	「いじめを受けた児童生徒が当該行為をいじめではないと否定することをもって「いじめはない」と判断するのではなく、当該児童生徒の表情や様子をきめ細かく観察するなどして確認し、いじめに該当するか否か判断している」とする教員の割合を100%にする。	生活指導部	A
	1-2-6	年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を向上させる。	教務部	B
	1-3-8	小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	生活指導部	B
学校オリジナル目標				達成状況
	1-S-1	問題行動への対応：学校安心ルールの配布と指導を年間1回以上行う。関係諸機関との連携を密接に行う。	生活指導部	B
	1-S-2	児童虐待等への対応：①こどもサポートネットの実施 ②スクールソーシャルワーカーと連携していく。	生活指導部	A
	1-S-3	防災・減災教育の推進：①年間3回以上の避難訓練を実施する。（火災、津波、地震）②学校だよりやはぐみネット機関紙、学校ホームページ等で学校での安全教育の取り組みの様子を年間5回以上知らせる。③地域との連携を含めて年間1回以上、防災訓練を実施する。	生活指導部	B
	1-S-4	安全教育の推進：①きまりを守ろう週間を学期に1回行い、児童の意識付けをさせる。②安全マップを作成する	生活指導部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

不登校児童に対し電話連絡や家庭訪問をしたり、スクールカウンセラーや子どもサポートネットと連携した取り組みを行ったりしている。また、生活指導連絡会で報告し合い情報を教職員で共有することができた。（1-2-6）

②

- ・スマホの使い方は高学年は非行防止教室で指導している。外部講師などを招いての指導や、配布端末の全体説明があってもよい。

- ・ SNS の使い方を NHK の動画で指導したり、啓発ポスターを掲示板に掲示したりしている。

1-1-2

- ・ いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職に報告することができている

1-1-3

- ・ いじめアンケートを学期に 1 回行ったり、普段からいじめがないか意識することで、いじめの早期発見や対応・指導を行うことができた。

1-3-8

- ・ 廊下での右側歩行、黄帽や名札の着用など、全職員で継続指導していく。

1-S-1

- ・ 学校安心ルールを使ってきまりについて指導したり、月に 1 回生活指導連絡会を行ったりすることで、問題を共通理解することができた。

1-S-2

- ・ 不登校児童の状況について、生活指導連絡会で情報を共有している。スクリーニング会議でスクールカウンセラーや子どもサポートネットと連携して、対応することができている。

1-S-3

- ・ 計画的に避難訓練を行ったり、消防や地域の方と連携して防災訓練を行ったりして、年間を通じて安全についての意識を高めている。いろいろな訓練を通して、防災に対する意識向上につながっている。

1-S-4

- ・ 毎週児童朝会での月目標をしたり、始業式や終業式の生活指導の指導が安全・安心な学校づくりにつながっている。
- ・ きまりを守ろう週間については、「お互いに声をかけあって安全に過ごしていこう」という活動であることを伝えていく。

基本的な方向 2 豊かな心の育成

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	①	小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	教務部	B
	②	小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。	生活指導部	B
施策	2-2-11	小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	生活指導部	B
学校オリジナル目標				達成状況
	2-S-1	道徳教育の推進：様々な事業などにより、「いのちと性」の教育事業、「子どもの情報モラル」の教育事業を実施し、自分や他者の価値を尊重し、高い自尊感情を育成する。	(道徳教育推進委員会) 研究部	B
	2-S-2	キャリア教育の充実：職業講話などを実施する。	教務部	B
	2-S-3	人権を尊重する教育の推進：人権教育の計画的・系統的な推進。「学校園における人権教育・啓発推進計画」の作成と実践をおこなう。	(人権教育)研究部	B
	2-S-4	インクルーシブ教育の推進：共に学び、共に育ち、共に生きる教育の推進①自立し、主体的に社会参加できる力を養う ②個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	(特別支援教育)研究部	B
	2-S-5	多文化共生教育の推進：①日本の文化や伝統についての体験的な学習の推進 ②日本語指導の保障、母語・母文化の保障	(外国人教育)研究部	B
	2-S-6	仲間づくり・集団育成を推進する。：①ソーシャルスキルトレーニングなどを通じて集団を育成していく②縦割り活動や異学年との交流を通して、互いに助け合う集団を育むことと低学年の児童は高学年を見習い、目標を持って高b年になる集団を育成する。	生活指導部	B
	2-S-7	校内美化と健康管理の推進 委員会活動を中心に、健康管理を行い、日々の清掃活動を通して学習環境の整備を行う。	庶務部	B
	2-S-8	今年度の学年・学級経営目標	各学年	達成状況
1年	一人一人の違いを認め合える集団の育成			B
2年	「誰とでも仲良くし、思いやりのある子、話をしっかりと聞く子、最後までやりとげる子」の育成			B
3年	思いやり～自分から、自分たちで、伝え合おう～			B
4年	共に考え、学び、支え合える集団へ			B
5年	高学年として、学校を支える腰のような存在になる			A
6年	最高学年として、学校の頭のような存在になる			C
糊枚媛	自己肯定感を高め、自立できる力を育む			B

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

2-S-3・子どもたちの言動(友達に対する発言や悪ふざけの行動など)を見ていると人権意識が低いように感じることもある。(一部の保護者も含め)→生活を明るくする週間で児童主体で進めていく。

2-S-4・個別の指導計画は、担任と支援担任で作成できると望ましい。共有する時間を年度当初に設けることで、共通理解を図る。

2-S-5・在籍児童のルーツをもとに取り組みを考えたり、研修を行う。

「いいところ見つけ」やたてわり班活動等の学校生活の中で、自分がだれかの役に立っていたり、認められていたりするという経験を積むことにより、子どもたちが自己肯定感を高める取り組みを継続して行う。(目標①)

②

・終わりの会や学級活動でのいいところ見つけや、各クラスでのいろいろな取り組みで、自己肯定感が高まってきている。また、日々の授業の中で児童のよい言動をほめ、共有することで自尊心の向上につなげている。今後も続けて自己肯定感を高める働きかけをしていく必要がある。

2-2-11

・キャリアパスポートを活用したり、様々な体験を通してキャリア教育を進めることができた。働くことの楽しさを感じることで、将来の夢につなげることができた。

2-S-6

・スマイルキッズでは、いつも高学年の優しく頼もしい姿が見られる。低学年も意欲的に楽しんだり活躍しようとしたり、互いを助け合う集団作りができている。普段の学習するグループはいろいろな組み合わせで活動できるようにし、助け合うことができるようにしている。伝え合うときの言葉使いが気になる児童も見られるので、継続して指導していく必要がある。

社会見学や店舗との交流により働くことの大変さや喜びを感じる事ができた。(2-S-2)

主体的清掃を実施し、自分から清掃しようとする児童が増えてきている。トイレや特別教室は、長期休業中に教職員で分担して清掃を行った。図工室は、来年度担当学級を決めて週1回清掃を行っていく予定である。トイレの床など清掃が行き届いていない場所があるので、児童に清掃の仕方を指導したり、掲示をしたりするなど方法を検討していく。(2-S-7)

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
施策	4-2-14	小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童（70%未満）の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。	研究部	B
	4-2-15	小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童（70%未満）の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。	研究部	B
学校オリジナル目標				
	4-S-1	■「授業中にわからないときは、先生やともだちに『教えて』と訊くことはできていますか？」の項目の肯定的回答を75%以上にする。	研究部	A
	4-S-2	■教科書レベルを超えた課題（ジャンプの課題）を月に2回以上行う	研究部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

・ジャンプ課題に取り組んでいるが、月2回以上達成に関しては単元などによって未達成のときもある。算数で単元の初めや終わりにジャンプ課題を行い、学習意欲や学び合う力が高まっている学級や、定期的に取り組んだ学級もある。(4-S-2)

→写真でもよいから共有フォルダにためていくことで、次年度からより取り組みやすくなる。

・学び合いを続けることで、「分からない。」「教えて。」と友達に聞くことができるようになり、学習の理解が深まった。また、ペア学習、グループ学習といった活動からも効果がみられた。(4-S-1)

・日ごろの授業の中で児童のよい言動をほめる、さらに共有することを意識している。学習する班も毎回くじ引きで決めることで、いろいろな組み合わせで活動できるようにし、友達の新たな一面に気付けるようにしていることでも聴き合うことのできる児童が育っている。(4-S-1)

4-2-14

国語科(R6→R7)

4年生 36.7→10.7 ○

5年生 21.4→14.3 ○

6年生 27.5→23.7

4-2-15

算数科(R6→R7)

4年生 23.3→14.3 ○

5年生 21.4→34.1

6年生 35.0→32.4

基本的な方向 5 健やかな体の育成

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標		全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より5ポイント向上させる。	健康教育部	B
施策	5-1 -17	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を50%以下にする。	健康教育部	B
	5-2 -18	小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	健康教育部	C
	5-2 -18	小学校学力経年調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」についての肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	健康教育部	C

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

- 耐寒駆け足やなわとび集会などに取り組むことができた。しかし、体育的な取り組み（かけあし、なわとび）が子どもたちの運動に対するきっかけになっているとは言い切れない側面があるので、期間やカードの使用、紹介の仕方等の工夫が必要である。また、よりよくするために、実施時期や方法についても検討できれば良い。（目標）
- 保健週間や身体測定の時間に養護教諭より、寝る時刻やメディアの時間を意識させたり、保護者への啓発をしたりしていた。また、栄養教諭の栄養指導などで朝食の大切さを意識させ、朝食抜きで登校してきたり、遅刻が多かったりする児童には、個別に声かけを行った。しかし、未だに遅刻をして登校する児童が一定数いるので、より一層家庭の協力をお願いする必要がある。（5-2-18）

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	⑨	運動会当日などICT活用が適さない日を除く授業日において、8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の71%以上にする。	(ICT) 教務部	A
学校オリジナル目標				達成状況
	6-S-1	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査 ・大阪市小学校学力経年調査 ・小学生すくすくウォッチの結果データの活用及び分析 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果データの活用及び分析 ・「心の天気」「いじめアンケート」等のデータの活用及び分析を行う 	研究部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

- ・毎日の心の天気の入力で児童の様子を把握することができた。（6-S-1）

心の天気の入力やタイピングの練習および、授業で学習者用端末を使用した。

基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	⑩	「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。	管理職	A
学校オリジナル目標				達成状況
	7-S-1	①校務支援システムのグループウェア機能活用等を通じたICTの活用による学校経営の効率化を進める ②夏季休業中等の学校閉庁日の設定、始業式、終業式の弾力的運用の活用	管理職	A
	7-S-2	多くの教職員が、質の高い研修に参加していく	管理職	A

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

基準1を満たす教職員の割合は92%で目標を上回って達成することができた。

週に一度、5時半閉庁や長期休業中に学校閉庁日を7日設定した。

ビデオ研や授業づくりの会、公開授業、公開研修等を実施し、授業力を高めることができた。

基本的な方向 8 生涯学習の支援

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
施策	8-2-20	小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん（月～日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を30%以下にする。	教務部	B
	8-2-21	小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	教務部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

読書週間や読書ノート、朝の読書タイムなど読書に関する取り組みを行っているものの、高学年をはじめ読書好きでない傾向がみられるため図書委員会での取り組みを考えるなど検討が必要。

また、休み時間や学習時のすきま時間等において、子どもたちはどうしても読書よりタブレット端末の使用を選択する傾向にあるため、今後「ノートタブレットタイム」を設けることも検討する必要があるかもしれない。

基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	⑫	■『「はぐくみネット」』『学校元気アップ地域本部』や学校協議会などの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して、肯定的に回答する小中学生の割合を50%以上にする。	教務部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 最終評価

登下校をはじめとした地域の見守り活動により、安全、安心に登校することができている。

PTAや地域と連携し運動会や清掃活動などを実施できた。